



# 雲南市立鍋山小学校 令和6年度 研究構想

## 学校教育目標

心のみがき 身をきたえ 学び 励む 子ども育成  
(徳) (体) (知) (動)  
～ふるさとの未来を拓く人材を育てる～

## 児童の実態

### 良さ

- 明るく素直な児童が多い。
- 全体の場でも意欲的に発言ができる。
- 学年関係なく仲がよい。上級生が下級生に対して優しい。
- 自分たちで学習を進めようという意欲がある。
- 友達と関わりながら学ぶ良さを実感している。

### 課題

- クラス替え等がないため、児童同士の固定概念が強い。
- 発言力のある児童の意見に流されやすい。
- 基礎的な学力の定着ができていない。
- 相手の気持ちを受け入れながら、話し合いや意見の交流をすることが難しい。
- 最後まで説明しきることができていない。

## 研究主題

自他を認め 関わりを深めながら よりよい未来に一步踏み出す 子どもの育成  
～課題解決に向かって学び合う力を高める算数科の指導の工夫～

## 仮説

児童主導の中で教師の役割を明確にし、学び合いの環境を整えれば、互いに試行錯誤しながら課題解決しようとする子どもが育つであろう。

### 研究の視点①児童主導の授業

- ・学習展開の工夫
- ・教師の出どころの工夫
- ・課題の設定と振り返りの工夫：児童の言葉で
- ・見通しのもたせ方

### 視点②承認の声かけ

- ・授業者の承認の声かけ  
(意図的に・積極的に)
- ・児童同士の承認の声かけの場や仕方の工夫  
(自他の頑張りを認め合う声かけ)

### 視点③学び合いの場の設定

- ・話し合いの基盤づくり  
(話形の提示・最後まで話す、聞く・受け入れる)
- ・話し合いの場の工夫  
(学習形態：個人・ペア・グループ・全体)
- ・話し合いの際に示す視点の工夫

## 学習以外の場で活躍できる場面の設定

ねらい：リーダーシップやチームワークの力を育てる。学習以外の場での児童の活躍の場を設け、自己肯定感や自己有用感を高める。  
方法：なかよし班活動を軸に年間を通して、計画的に活動を行っていく。

## 目指す子ども像

- ・認め合う子：多様な考えを認め合える子ども
- ・支え合いができる子：最後まで諦めずに問題解決に向かえる子ども、それを支えることができる子ども
- ・高め合う子：自分の考えをもち、みんなの力で試行錯誤しながら、解決していこうとする子